

# 1 術前に必要な診査・診断、 歯周病治療で考慮すべきこと

おの はるひこ      たかい やすひろ  
小野 晴彦<sup>1</sup>      高井 康博<sup>2</sup>

1 JIADS 講師    おの歯科医院  
〒870-0035    大分県大分市中央町2-3-19 大津ビル3F

2 JIADS 講師    医療法人双樹会 高井歯科医院  
〒731-0112    広島県広島市安佐南区東原1-1-2  
シーブリーズ東原七番館2F

## 本連載の主旨

昨今、国内だけでなく世界的にインプラント周囲炎の増加が顕在化してきており、その対処法の確立が急務となっている。しかしながら、インプラント周囲炎に対する明確な治療法ははまだ確立されておらず、その解決には相応の時間が必要と思われる。それでは、現時点においてわれわれが最も留意すべきことは何か？ それは、インプラント周囲炎を起こしにくいインプラント治療を行うことと考える。そこで本連載では、インプラント周囲炎を予防するために考慮すべき事項について、以下の観点から考えてみたい。

(高井康博)

5月号 術前に必要な診査・診断、歯周病治療で考慮すべきこと …… 小野晴彦、高井康博

6月号 インプラント埋入手術時に考慮すべきこと …… 猪子光晴、高井康博

7月号 二次手術から補綴ステップとメンテナンスにおいて考慮すべきこと

…………… 石井肖得、高井康博

(太字は今回掲載分)

## はじめに

インプラントが臨床に応用されるようになって半世紀近くが経過したが、その間、インプラント体の形状や表面性状の改良、新しい手術方式の登場あるいは周辺機器の進歩等により、インプラントの生存率は90%を優に超えるまでに上がってきた。それに伴い治療選択に占めるインプラント治療の割合も増加し、多くの患者がその恩恵に浴してきた。

しかし、皮肉なことにインプラント治療が増加するに伴い、当初は予想し得なかった新たな疾患、すなわちインプラント周囲炎とそれによるインプラントの喪失が問題化してきた。現在、世界的に見てもこの疾患に関する文献は飛躍的に増加し、学会等でも常にトピックになっているのが現状である。

わが国でも、インプラントに関するトラブル、訴訟が一時期マスコミに取り上げられ、世間を騒がせたことは記憶に新しいが、今後も治療を提供するわれわれとしては、“いかにこの治療を成功させるか”